日本人中学生の英作文の形式的誤りに対する feedback
―文法的誤りにおける self-feedback, peer feedback の検証―

教育デザインコース　英語領域
塚本　麻衣子

1. 研究目的

英語教育では self-feedback, peer feedback は主体的な学習者や協働学習を育むうえで効果的であるとされる。また、学習指導要領 (2008) では、文構造や語法を理解して正確な文を書くことが示されていることから、本研究では中学生が feedback 活動を通して「形式的・文法的な誤り」を修正できるかを検証することを目的とする。

2. リサーチクエスチョン

①中学生が self-feedback, peer feedback において、形式的誤り・文法的な誤りに対する修正をできるか。また、self-feedback, peer feedback で修正内容に違いはみられるか。

② 熟達度レベルによって、self-feedback, peer feedback に違いがみられるか。

③ peer feedback と teacher feedback の内容を理解したうえで、書き直しを行っているか。

④学習者は、誰からの feedback を最も好むか。

3. 研究対象

都内公立中学校　2 年生 4 クラス
self-feedback48 人 peer feedback38 人
国立大学附属中学校 2 年生 2 クラス
self-feedback39 人 peer feedback29 人
熟達度による違いを検証するために 2 校を設定。

4. 手順

手順①　学習者は事前テストを受け、質問紙に記入し、英作文の書き方の指導を受ける。

手順②　学習者は英作文を書く。

手順③　feedback シートをもとに、学習者が修正を行う (self-feedback, peer feedback)。

手順④　回収し、teacher feedback を加える。

手順⑤　エッセイを返却し、学習者は書き直しを行い、その後、質問紙を記入。

5. 結果

RQ ①：事前テストの平均点が高い国立大学附属中学校において、得点と peer feedback 修正率に弱い正の相関 (r=.36) がみられた。

RQ ②：両校の feedback 修正率に有意差なし。

RQ ③：両校ともに教師による feedback への理解度が低かった。

RQ ④：以下の結果がみられた。

	自分	友人	先生	ALT	その他
都内 self	2.1%	15.2%	47.8%	21.7%	13.0%
都内 peer	13.1%	10.5%	39.4%	28.9%	7.8%
国立 self	0%	9.5%	54.7%	33.3%	2.3%
国立 peer	13.7%	6.9%	48.2%	31.0%	0%

6. 考察

フィードバック修正率が全体的に低かった要因に、feedback 方法の指導や feedback シートの項目数・内容の再検討の必要性が考えられる。また、学習者が peer feedback の内容は理解しているが、teacher feedback の内容を理解せずに書き写している原因として peer よりも質問しづらいという心理面が影響していることが考えられる。

7. 引用文献

Suzuki,M.(2008). Japanese Learners' Self Revisions and Peer Revisions of Their Written Composition in English. *TESOL Quarterly*, 42, 209-233

Zhou,H.(2010).Investigating learners' use and understanding of peer and teacher feedback on writing: A comparative study in a Chinese English writing classroom. *Assessing writing*, 15, 3-17

文部科学省 (2008).『中学校学習指導要領解説 外国語編』